

発行：余市協会病院
発行日：平成 27 年 5 月 1 日
発行人：吉田 秀明
編集人：広報委員会
お問い合わせ：0135-23-3126



「新年度のご挨拶」

社会福祉法人 北海道社会事業協会 余市病院 看護部 森本千恵子

昨年 8 月 1 日より、北海道社会事業協会余市病院に看護部長として就任させていただきました森本です。

以前は、岩見沢市立総合病院で、看護部副部長として 5 年勤務し、その後、専従医療安全管理者として、生まれ故郷の函館医師会病院に 3 年弱勤務していました。

実は、函館医師会を退職後は、札幌でまったく違う道？を考えていたところだったのですが、縁あって、古くからの知り合いの上戸総括部長から、お誘いを頂き、この度の就任となりました。

当院に限らず、これからの地方病院の経営は、地域との協働作業だと思っております。地域のニーズを知り、地域の健康を包括的にサポートし、また地域に溶け込む、そんな看護部組織を作り上げることが、私の使命だと思っております。

その実現に重要なのは、やはり「人材」です。地方の医療は、現場が主体であり、何よりも職員が財産です。それらを守り、育て、未来へつなげる、そんな包容力のある？(笑)看護部長でありたいと思います。……ここは合格点でしょう！!(^^)!

「大丈夫、これからは、私がみなさんの防波堤。一緒に心からの笑顔を目指しましょう」

今しばらく、まったく違う道(?)という夢は、おあずけですが、この社会事業協会という大きな輪の中で、看護本来のクリエイティブな側面を継承し、患者目線でケアが提供できる、豊かな人間性をもった看護師の育成を、私のライフワークとして実践する所存です。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。



森本看護部長イメージキャラクター「モリイさん」



新入職員オリエンテーション風景

研修医リレーコラム71「乗り物酔いについて」

みなさんこんにちは。4月に研修させていただいた手稲溪仁会病院の竹田昌平です。たくさんの迷惑をおかけしたと思いますが楽しく研修できたのはみなさんのおかげです。ありがとうございました。さて、春も終わり暖かくなってきて旅行やアウトドアの季節ですね！乗り物に乗る機会が増える時期、今回は「乗り物酔い」についてお話ししたいと思います。

・ 乗り物酔いとは？

「動揺病」または「加速度病」ともいわれ、乗物の揺れ、特に不規則な加速・減速の反復が内耳の三半規管や前庭を刺激することによって起こる自律神経系の病的反応です。

・ 乗り物酔いしやすい年齢は？

平衡機能が発達しはじめる小学生～中学生くらいです。

・ 症状は？

嘔気の特徴ですが、胃の不快感や倦怠感、眠気、神経過敏がしばしば先に出現します。

・ 対応策は？(参考文献; American Family Physician)

✓天候不順時の移動を避ける ✓起伏の激しい地形やカーブの多い路面を避ける ✓乗り物の最も安定した場所にいる。具体的には、飛行機では翼の座席、自動車では運転席あるいは前席、バスや電車では前の方の窓側、船では波の来る面に対して水面近くだけど船首は避ける ✓水平線を見るようにする ✓自分で乗り物を運転する ✓動く方向に顔を向ける ✓目を閉じて横になる ✓視覚的な作業をしない ✓身体的(脱水や疲労、空腹など)、精神的、感情的に不快を及ぼしやすい要因を減らす ✓体を動かし続ける

また、予防のための薬物としては酔い止めとして市販されているトラベルミンが有効です。



個人的には車の同乗者のつまらない会話に一番酔いますが、これは精神的な不快になるのでしょうか(笑)以上、簡単ですが「乗り物酔い」について紹介させていただきました。手稲溪仁会病院 研修医2年 竹田昌平



救急件数 (4月) 外来受診189件 うち入院39件 救急車来院58件 うち入院25件